

非住宅で採用増

環境パイル(S)
工法協会・総会

環境パイル(S)工法協会はさきごろ、総会を開き、役員改選で中村大樹氏から高原木材の石松剣吾氏が新会長に就任した。石松新会長は「環境パイル工法は県産材利用を通じた提案で、公共物件や非住宅物件に数多く採用されてきた実績がある。今年はこの県産材利用の提案を促進していきたい」と意欲を示した。

同工法は兼松サステック(東京都、小泉浩一社長)が普及に取り組み地盤補強工法で、木材を地中に埋めて地



石松 新会長

盤を補強するもの。同協会はその施工を手掛ける会員が加盟している。

総会では、2023年度の実績は4637棟で、22年度の5131件に比べ数は減少したが、同工法で使用し

た木材の材積は過去2番目に多く、また非住宅物件での採用が増えつつあることなどが報告された。さらに、24年度は6000棟を目標とする。9月に開かれる地盤技術フォーラム2024に出展することや、植林活動やボランティア活動にも力を入れていくことなどの事業計画案が承認された。